

経営比較分析表（令和元年度決算）

福島県 郡山市

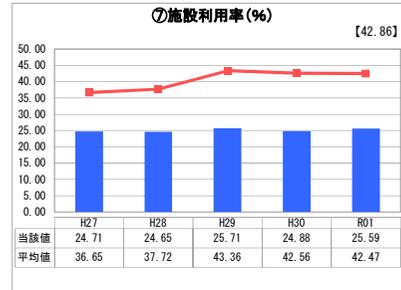
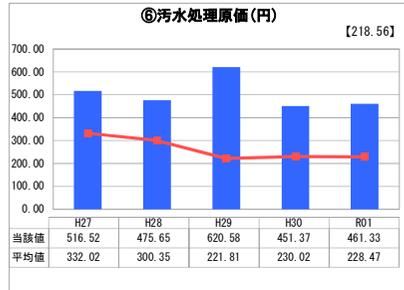
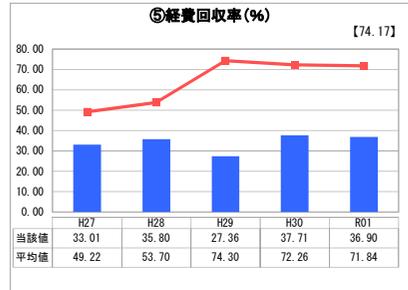
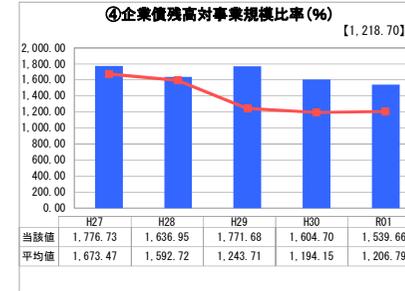
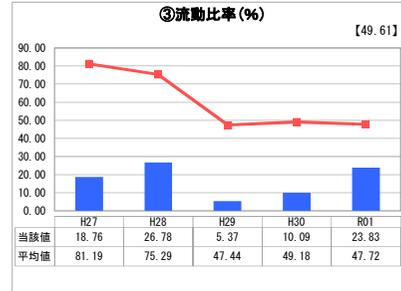
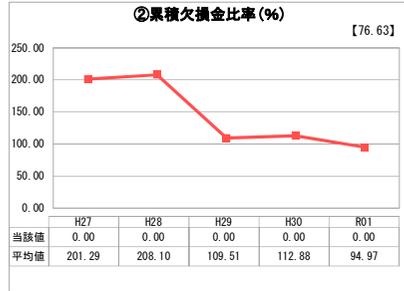
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|------------|--------------|-------------|---------|--------------------------------|
| 法適用 | 下水道事業 | 特定環境保全公共下水道 | D2 | 自治体職員 |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 普及率 (%) | 有収率 (%) | 1か月20m ³ 当たり家産料金(円) |
| - | 44.53 | 0.83 | 96.53 | 3,066 |

| 人口 (人) | 面積 (km ²) | 人口密度 (人/km ²) |
|-------------|---------------------------|--------------------------------|
| 322,996 | 757.20 | 426.57 |
| 処理区域内人口 (人) | 処理区域面積 (km ²) | 処理区域内人口密度 (人/km ²) |
| 2,657 | 1.52 | 1,748.03 |

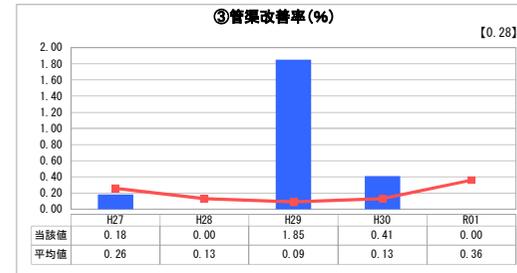
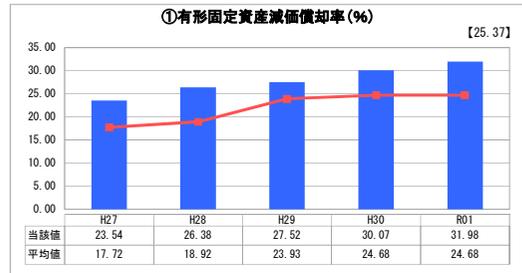
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 累積欠損金比率、③ 流動比率
 経常収支比率は、一般会計からの繰入金により100%で推移している。流動資産が増加したため流動比率は増加したが、類似団体と比べ低い水準にある。また、欠損金は生じていない。

④ 企業債残高対事業規模比率
 企業債残高、使用料ともに減少傾向にあり、企業債残高の減少幅が大きいため比率は減少したが、類似団体と比べ高い水準にある。

⑤ 経費回収率
 汚水処理費が減少したが、使用料の減少の方が大きいため経費回収率は減少した。類似団体と比べ低い水準にある。

⑥ 汚水処理原価
 汚水処理費、有収水量ともに減少したが、有収水量の下げ幅がより大きいため、汚水処理原価は増加した。類似団体と比べ高い水準にある。

⑦ 施設利用率、⑧ 水洗化率
 類似団体と比べ施設利用率が低い水準であるが、これは水洗化率が類似団体と比べて低いためだと考えられる。

経費回収率向上のため、整備が完了した区域への早期接続助受や、他の未接続世帯への普及啓発活動をより一層強化することにより使用料の確保に努めるとともに、民間委託の拡大等により経費節減に取り組み、経営の改善を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
 増加傾向にあり、類似団体と比較すると高い水準である。

② 管渠老朽化率、③ 管渠改善率
 法定耐用年数を超えた管渠はなく、管渠改善も突発的な修繕等への対応である。

今後の更新需要に備え、適時、適切な調査等を行っていく必要がある。

全体総括

一般会計繰入金により欠損金は発生していないものの、汚水処理費を使用料で回収できていない状況を踏まえ、経費節減に努めるとともに、使用料や有収水量の確保に向け、効果的な普及啓発活動について研究し実施していくことで、経営の改善を図っていく必要がある。

特に、水洗化率は増加傾向であるものの50%と低いことから、人口減少や高齢化の進行が早い当該地区の実情に配慮したきめ細やかな普及啓発活動が必要となる。

また、管渠を含めた資産の老朽化度合は低い状態ではあるが、予防保全の観点から状態を適時調査・確認し、計画的な修繕を行うとともに、施設の更新については、ストックマネジメント計画に基づき長寿命化による投資の平準化の推進が必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。